

住まいについて考えよう

といかん暮らしの良いところ

冬の暮らしの助け合い

- ・一人は不安。地域に住み続けたい
- ・きっかけは冬の生活。
- ・近くに助け合える人がいると乗り越えられる

薪のある暮らし

- ・薪がある、薪ストーブの暮らしができる
- ・研究林の端材(有料)、流木、知り合いからもらう。巻き割り、乾燥(2年)、自分の山から調達

住まいへのニーズ

年金暮らし

- ・年金暮らしになったら住宅が欲しい

農業研修生・実習生・新規就農

- ・農業の研修生や実習生の住まいがあるとよい
- ・新規就農は夫婦限定

賃貸住宅その他

- ・賃貸住宅あるといい
- ・仕事柄、住まいと職場は別のほうがいい場合もある
- ・来年建ったら入ってもいい

現在の住まいの問題点

老朽化・性能低下

- ・息が白くなるほど寒い
- ・老朽化が進んでいる
- ・水道凍結するようになってきた
- ・今の家が広すぎる
- ・冬の灯油代が高い
(1か月に灯油タンク1.5杯)

住宅・敷地規模のミスマッチ

- ・農家をやめると除雪が大変、街に出たい
- ・幌延の住宅事情は、高すぎ、広すぎ。
ニーズと合わない

住宅情報の不足

- ・住宅情報がない

住宅の種類・数の不足

- ・住まいがなければ地域を出ていかざるを得ない
- ・公営住宅しか選択肢がない
- ・といかんに住まいがあれば住む人も増えるかも
- ・JA職員の多くは幌延の社宅・民賃に住んでいる

どんな家に住みたい？

<住宅形式>

- ・戸建てよりはシェアハウスのほうがいい
- ・シェアハウスの経験あり、ストレスはない
- ・若い人は不得意？→大丈夫な人もいる

<間取りなど>

- ・シェアハウスはリビングと共同キッチン。個室にバストイレキッチンが欲しい
- ・漬物や交流ができるスペースがあるとよい
- ・駐車場は世帯当り2台分は必要。冬の除雪も考慮
- ・体を動かせる場所が近くにあることが大切

<性能>

- ・集合住宅だと熱の融通ができる(暖房費削減)
- ・薪を焚ける家があってもいい

<ターゲット>

- ・若い人が一緒に住んで見守ってくれれば安心
- ・シェアハウスは仲間内で入りたい・女性だけで

<家賃>

- ・年金におさまる額

<利用の仕方>

- ・酪農や職種の違いにより生活の時間帯が異なることに配慮が必要
- ・冬だけ集まる
- ・子どもがたまに帰ってくる時に部屋がいる

実際に移転できる？

- ・自分の家から出ることを想像できない
- ・自分で動けるうちは自宅で住みたい
- ・動きにくくなった後、入れる場所があれば
- ・年金で家賃払えるか心配

<試行しよう！>

- ・見に行ける事例があるとよい
- ・仮想・シェアハウス体験会を実施してはどうか。研究林の寮、民泊での体験
- ・冬だけ集まって住む体験会など
- ・空き家の調査をしているので、使えそうなものを改修して、そこからはじめてはどうか。